Dr.米谷&真崎のリレー講座

患話休題

かんわきゅうだい ㉓

院長
真崎 雅和

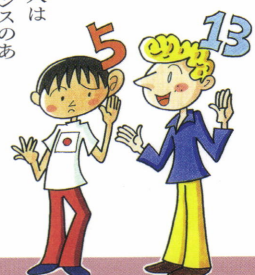
日本人が(僕が)英語がダメな訳

私たちが聴力検査で検査する音は機械的な「ボー」とか「キー」「ピー」といった周波数が1種類で一定な〝純音〟というものですが、皆さんが日常で聞く音はさまざまな周波数が入り交じり、互いに干渉しあった複雑な音です。人間はどうやって聞き分け、判断しているのでしょうか。

言葉に限定してみましょう。まず基本は母音です。日本語なら「あいうえお」と5つの音をいいますが、英語では8個、スウェーデン語では13個もあります。母音も純音ではなく、いくつかの周波数の違う音が混じり合っており、大きな2つの周波数を検出することができます。母音はこの2つの周波数の干渉パターンの違いを認識することにより、聞き分けていると考えられています。例えば「あ」なら0・5～1・i5kHzの音と1・4～2・0kHzの音が組み合わさった時に認識されます。この周波数の組み合わせが日本語では5つあるわけです。でも随分幅がありますよね。これが母音の13個のスウェーデン語では各周波数の幅が狭まるわけですので、日本語はおおざっぱな言語といえるのでしょうか。さてこの母音の脳内パターン認識は出生後1年ほどでほぼ決定づけられるといわれています。つまり多くの日本人は、その後努力して耳の訓練をしないと、もっとも西洋系で単純である英語耳さえも習得が難しいことになります。音楽的なセンスも同じようなことがいえるらしく、ある程度成長してから新しい音楽を身につけるのが容易でないことは実感として理解できますね。ところが英語ができない場合は、受験科目でもありますのでセンスより努力が足りないと怒られます。日本人で英語の上手な人は相当の努力家か、センスのある人なのです。ジャズをうまく歌ったり演奏したりできないのと同じくらい、英語が聞き取れないのはしょうがないことだと諦めましょう(自己弁護です)。

生まれつき聴力に障害のある人は、母国語さえ習得できなくなる危険性があり、早期発見・早期治療が叫ばれていました。ほんの40年前までは、その発見が遅れる子供たちが少なからずいて、いくら教育をしても言語能力が9歳レベルを超えない「9歳の壁」という言葉がありました。その後早期発見の努力がなされ、0歳時に発見・療養教育すると6歳くらいで健常者に追いつき順調に成長していくことが示されました。また現在欧米では人工内耳を1歳6カ月未満で装用することにより、より言語発達が促進することも報告されています。

わが秋田県では耳鼻科医の中澤操先生の努力があり、先天性難聴の早期発見(出産時の聴能力検査)や教育が行われ、全国でも有数の先進県となっております。ちなみに彼女は英語も堪能で、言語系のセンスのある人なのでしょう。



診察時間が近づいたことをお知らせする
約30分前
メールサービスを
ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!

急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30～12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00～6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00～4:00	

真崎耳鼻咽喉科医院
TEL.018-845-0234
FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3